

の結社解散と財産の没収（その中には文書、書類の没収も含まれていた）といった二重被害で現存する書籍、雑誌、小冊子、書類は極めて稀である。

筆者はこのことを非常に憂い、より真実なる玄洋社、黒龍會像を浮き彫りにすべく原資料の収集を行ない、『内田良平著作集』等の覆刻出版を期すことよって、悪意と偏見に満ちた玄洋社、黒龍會像を社会科学という仮面を被った学匪と言っても決して過言ではないイデオログ達から解放するものである。このことに依って一般に誤謬される、玄洋社、黒龍會の一掃が少しでも出来得ると信じている。今般、幻の本ともいふべき黒龍會『會報』第一、二集の覆刻刊行は、より黒龍會の実像が判りする好資料だと断ずる。

『内田良平著作集』（皇極社出版部、既刊第一、二、三卷、全十卷予定）等と共にこの『會報』という原資料を世に明らかにしてその公正なる評価を研究家諸氏に質すことは、玄洋社、黒龍會の道統を継承する一道人として又、玄洋社、黒龍會で活躍した人を祖先に持つ一遺族としての使命の一つであると考えている。是非とも原資料を活用した公正なる研究に本書が役立つことを願っている。

（非賣品）

明治三十四年三月十日發行

會

報

第一集

黒

龍

會

品中高價格を有するもの一つもあらず

市の中央一大廣場あり市場に充つ四圍牆壁を廻らし各隅奇巧なる樓臺を設け皆な官有に屬す
市中及市外に於て毛革製造所製細所豆餅製造所等あり豆餅は家畜の食料として露領烏蘇利地方に輸送
せらる又製粉所あり品質頗る佳良なり亦盛に露領に供給す其他滿州人の食品として非常に需用を有す
る素麵の製造所及製紙所有り、紙は専ら彩色せる人馬の畫像を作る工場に使用す此の人馬の畫像は彼
等上流者葬式の際必要附屬物にして最後に之を其墓上に焼失するものなり又數個の煉瓦製造所、壺製
造所火酒製造所及製革所等あり

當寧古塔附近に於ける獵業及毛革製造は將來有望の事業ならん毛革の取引露人清人にして中々盛なり
電信局ありて琿春を經へ浦沙線に接屬し日本及歐州に連絡す

寧古塔城の西南を距ると遠からずして古昔大都の遺跡を見るを得べし之れ土人の呼んで東方の首都
「トンチャン」と稱するものなり傳へ曰ふ今より一千年前此地未だ朝鮮の一部なりし時代に於て已に荒
廢したるものなりと一説に因れば滿州王國の創設者「ヌルハツイ、アドラー」の據りしと稱するものは
即ち此の城市なりと又他説には之彼の往昔全盛を極めたる渤海王國の首府なりとも曰ふ（以下次號）

韓國沿海事情

葛 生 修 亮

葛生氏は、明治二十六年十月朝鮮に渡り、釜山に遊ぶこと半歳、翌年五月歸朝、明治三十二年二月再び渡韓、昔はく八道の山河
を跋涉し、六月釜山に返りて、朝鮮漁業協會に入り、身を一葉の扁舟に托して、常に東北豆滿江より四南忠清道沿海の形勢及漁
業の調査觀察に従事し、此間一回歸朝、更らに昨三十三年十月歸朝したるの入り、

緒 言

八道の地たるや我國を隔つる僅に一葦帯水の間にあり飛艇一夜にして達すべく北は西比利亞の廣原に
接して露西亞と隣し西は滿清の境に連りて交通頗る頻繁其他海島の要衝港灣の地位實に東亞の咽喉を
扼するに足るものあり此故に東亞の振興を策するもの先づ朝鮮の興起を云ひ邦家百年の大計を畫する
もの又た朝鮮の扶植を云ふ其我邦に於けるや詢に唇齒輔車の關係ありと云ふべし今の時に當りて一葉
を創め一事を樹て彼れの事業を導き人智を開發するは皆當さに我邦に於て計の得たるものなるべく之
れが形勢を精細詳知して參考の料に供するは最も有要の事たるを信ず予の斯邦にあるや常に漁者の間
に伍して普く海島を往來し頗る其形勢に通ずる所あり則ち茲に此間の消息を傳へて參考の資に供する
所あらんとす

第一 地理

位置 韓國は亞細亞大陸の東部滿國吉林、盛京、兩省及露領「ボシュエツト」の境より南方に向つて突出

したる半島にして北緯三十三度十五分乃至四十二度二十五分東徑百二十四度三十分乃至百三十度二十五分の間に位し北は白頭山及鴨綠江を限りて支那と境を分ち東北豆滿江を扣へ鹿屯を狹んで僅かに露領南島蘇里州に隣し西黃海を隔て、清國盛京、江蘇、山東、直隸諸省に面し南東は近く我邦の山陽九州に通じ東日本海を抱いて遼に我邦の山陰北陸諸州と相對す其長さ南北四百六十英里市の廣き處東西百三十里に及ぶと云ふ

區劃 全國分ちて平安、黃海、京畿、忠清、全羅、慶尙、江原、咸鏡の八道となし就中慶尙、全羅、忠清、平安、咸鏡の五道は各々之れを南北兩道に分ち内平安、黃海、京畿、忠清を嶺西、江原咸鏡を嶺背、忠清、全羅、慶尙を三南と稱す蓋し嶺西嶺背とは白頭山脈の分嶺によりて區別したるもの三南とは國の南に存在するもの、稱なり又た江原道を關東平安道を關西とも云ふ京畿道は國の中央に位して黃海平安二道と相連りて共に西而黃海に臨み忠清、全羅、慶尙二道は南方にあり此六道を背にして國の東海岸に沈めるを江原咸鏡二道とす

地勢 北より南に延びて東西に狭く山岳多くして平地少なし其北疆に巍立するものは白頭山にして峻高國中第一に居り此脈走りて南に向ひ其形馬背の如く東岸咸鏡、江原二道に偏延して南海に薄り全羅道に至り其影を没して海中に入り再び顯れて濟州島となり漢拏山其中央に聳ゆ此間幾多の支脈分岐して峯巒峻嶺國中に蟠廻蜿蜒し其地形東南に突起し西南に傾斜せるが故に嶺背咸鏡、江原二道及び慶尙

北道は其水東に向つて流れ慶尙南道及全羅道は南に下り嶺西の地は河流悉く黃海に注ぐ

山岳 咸鏡道の白頭山、慶尙道の島嶺、全羅道濟劬島の漢拏山之れを韓國の三大山と云ふ其他高山峻嶺到る處に些なからず此國の山は岩石より成れるもの多數を占め金銀銅鐵水晶玉石等の諸鑛に富む人民殖林の法を知らざるを以て概して赭禿の山形多く樹木の繁茂するもの稀なり唯北方白頭山及び鴨綠江沿岸附近に至りては樹木甚だ繁茂して頗る良材を出すと云ふ噴火山は之れ無しと雖とも處々の山中温泉の湧山するものあるより之れを見れば國中に火山脈の縱横するものあるを知るべし濟州島は古來有名の熄火山なり

河川 此國長江大河に乏しからずと雖とも概して西及び南方に多く其主なるものは平安道の鴨綠江及大同江、京畿道の漢江、慶尙道の洛東江、咸鏡道の豆滿江にして之れを朝鮮五大江と稱し更らに平安道の清用江恩清道の錦江、全羅道の榮山江及蟾江の四を加へて九大江と云ふ其他掛舟を通じ灌溉に利する河川多し

島嶼 東北面に少なく南西面に多し殊に三南に在りては大小幾多の島嶼其海中に出沒陰見するの狀賦に暗夜の星影も宵ならざるの觀あり就中其大なるものは濟州島、巨濟島、南海島、珍島江華島にして之れを韓國五大島とす其他知名の島嶼些なからず

氣候 全國繞らすに海を以てし其沿岸寒潮の流域に當るが故に氣候の變動殊に甚だし冬期北方の寒地

威鏡道に至れば十月初旬既に降雪を催ふし六月に至りて漸く四山の雪を解く江原、京畿、黃海、平安諸道は冬期中長江大河を氷結して氷上人馬の往來に委するに至り慶尙、全羅、忠清三道は國中温暖の地と稱すれとも極寒の際は猶ほ密柑、鷄卵、麥酒等の凍凝することあり之れに反して夏季は甚だ酷熱を逞ふし仁川に於て寒暖計華氏九十六度元山に於て九十五六度に并騰するを常とし釜山に至りては稍々之より降る即ち本邦九州邊に比すべし寒暖共に酷烈なるものと斯の如しと雖とも俗に三塞四暖と稱して三日寒く四日暖くして氣候を順環調和するが故に稍々人體に耐ゆるを得べし又た春秋にありては氣候温和に野花時を逐ふて開くものと本邦と異ならずと雖とも其季節甚だ短し

人口。昨三十三年度同國政府の調査によれば戸數一百三十九萬七千六百三十、人口五百六十萬八千一百五十一人内男三百十萬二千五百五十八人女二百五十萬五千五百一人にして其統計比較上男女の權衡を失し又た年々減少を來すの傾向あり察するに是れ地方官等の私利を貪るが爲の虚偽の報告をなし又た地方により戶籍調査法を解せずして女子、小兒、奴隸等を加算せざるもの存るに依るものにして其全般の概觀上人口一千萬人に下らざるべきを信ずるなり而して其内慶尙、全羅、京畿、忠清の四道最も稠密し之れに次ぐを平安、黃海二道とす江原威鏡二道に至りては甚だ稀少に殊に威鏡道關北の地に至りては十余里方を管轄する一郡下の戸數一千内外に過ぎざるものあり

風俗。韓人は一般に傾情にして絶へて勤勉蓄貯の心なく徒に目前の缺を補ふを以て足れりとずるの風

あり又た事に當りて敢爲の勇なく失敗に逢ふて沮喪し易く凡て舊法株守に甘んせり當今文明日進の世獨り桃源洞裏古仙人の態を學んで時勢に伴ふ能はざるもの理ありと云ふべし

此國の種族に兩班常漢及奴隸の區別あり兩班とは貴族を指し常漢とは平民と云ふ義なり兩班は權戚殊に大に平民を遇すること抑壓殘忍を極め一介を走せて農商より金穀を徵集し之れを拒むときは立ろに杖撻を加ふるものとある如き一般の情狀なり兩班の通行には從者前後を擁して警蹕し人民皆な路傍に平伏敬禮するものと我邦維新以前大名の其領内を通行する際に於けるが如し

生計は兩班は官祿を食み中人以下は商工等に從事す農耕は男女共に之れを爲せども女子は専ら勞働に従事し勤勉男子に勝る

女子は國風他の男子に見ふるあとを避け其室は女房と稱して他人の出入を禁す殊に中人以上の家に在りて甚だ嚴なり中人以上の婦女他出の際には必らず而帛を被り敢て眉目を露はさず或は輿に乗じ布帛を垂圍する等の事をなす是れ此國人姪風殊に盛んなるが故に男子の制裁する所となりて茲に至れるなりと夫れ或は然らん又婦女の殊に本邦人に接するあとを忌み道途邂逅するあとあるときは遠く逃避して其姿を匿し、然らざるも路傍に避けて通過を待つを常とす

又た男子の脱帽、素足、其他體部の皮膚を露はすことを卑しむ裸體、袒裼、露脚等を忌むこと殊に甚だし本邦人に對しては一般に惡感情を懷くもの少なし唯、從來屢々爭鬪を惹起したるあとある原因を

見るに概ね彼我の事情に通せず又た相互に輕侮賤視の念を包藏せしものあるによりしと雖も現今に至りては韓人稍々我が邦の事情を解して接遇良好に赴き本邦人にして信實之れに接すれば韓人到る處に親睦の情を盡すに至れり然れども又た地方により頑迷の徒なきにあらざる

産物 此邦の産物は人工を加へたるもの殆んど無くして概ね天然若くは農産海産のものみに止まる陸産中重要なものは米、大豆、人參、野獸皮、砂金、銅、鐵、水昌、玉石等にして其他猶ほ種々あれども列擧するに足らず海産は饒多なり然れども韓人の漁業は甚だ振はずして概ね本邦人の手に委するの狀態なり本邦人年々の收穫百七八十萬圓に達す

海勢 朝鮮の地勢は八道共に海に沿ひ其海岸線の最も長きは咸鏡道之れに次ぐは江原、慶尙、全羅、平安の四道にして忠清、京畿、黃海三道は稍々短し海岸の全長一千七百四十英里に達し内本邦漁人の通漁區域に屬する四道は長さ殆んど一千海里に及び其海中魚類の棲息回游甚だ饒多なり殊に慶尙、全羅、忠清三道は大小幾多の島嶼其海中に碁布臚列して最も漁業に適し又た船舶碇繫に便する良港灣に乏しからず茲に沿海の事情を擧ぐるに當り全羅、慶尙、江原、咸鏡、四道に厚くして他道に薄き所以

のものは予が實地調査の時利害關係の重大なる所を丁重にせるが爲なり
潮流 凡る潮水の流動は大氣の流動に原因して之れを示すものにして其流域の分布により大氣の寒暖に影響を來し又た海中棲息魚族を異にするものにして其關係する處誠に偶然に附すべきものにあらざる

るなり潮流は之れを分ちて寒潮と暖潮との二となし其流域共に夏冬季節の推移によりて幅員を伸縮弛張すと雖も其本流は一定變ざるまとなし暖流は一名之れを黒潮と稱し南赤道海流を源とし北に向つて注ぎ我國にありては其本流臺灣の東より沖繩島に沿ひ流れて太平洋に向ひ九州四國の南海を經て伊豆沿海より奥州金華山沖に進む又た一派九州の西部より岐れ平戸五島等の西海を經て朝鮮海峽より山陰道に沿ふて日本海の東部を流れ其極阿哥科海に歸するもの之れを韓海に影響する暖潮の一派とす寒流は源を北方の寒帯より發し其流域數派ありと雖も朝鮮沿海に流注する一派は之れを來滿派と稱し阿哥科海の北西より來り黒龍江の前而を過ぎ日本海の西半部を朝鮮大陸に沿ふて慶尙全羅の海中に流れ全羅道の南西角より折れて西向朝鮮と支那との間に位する黃海に至るものなり而して韓海に於ける兩流の關係は春季四月頃より漸く暖流の幅員を増し盛夏に其勢力を極め全羅慶尙より漸次江原咸鏡道沿海に至りて其寒暖兩流の交差を示す全羅尙慶海中に於て夏季鯖、鮭等の暖流魚を産するは之れが爲めなり更に十一月頃に至れば暖流漸く減じて寒流再び其幅員を膨脹し全羅慶尙の沿海は恰も其交差の點に當る冬季慶尙道沿海鯨鰐等の寒流魚を産するを以て之れを知るべし斯の如く韓海に於ける海流は常に寒流を以て其大部を占むるが故に氣候の變動常に甚だしく殊に冬季の酷寒は之れを本邦に於ける同緯度の地方と同日に語るべからざるものあるは是れ一に潮流の司配する所に依るものなり

本道は國の東南端に在り北は江原道に隣し西は一帶の山脈を負ふて忠清全羅と界し東は日本海に枕みて其海角近く我對馬と相對し即ち朝鮮海峽を成す海岸の形勢釜山以北は其港灣に乏しく且つ氣候寒冷なりと雖とも其西南は屈曲甚だ多く幾多の島嶼其前に散點して真好の港灣に富み行舟甚だ安全なるのみならず氣候稍温暖にして四時漁業に適し殊に釜山の要港を控へて我國と最も相近きが故に本邦より各道に出漁の漁船往來共に概ね此處を通過し且つ魚類の販賣に便なるを以て漁舟常に其帆影を絶たず木道の管區は德數六十一郡に跨り其内海岸に沿ふもの釜山以北は東萊、機張、蔚山、慶州、長鬐、迎口、興海、盈徳、寧海とし其以南に在るもの金海、熊川、昌原、咸安、鎮海、固城、晋州、泗川、昆陽、河東にして巨濟及南海二郡は共に其海東にあり漁業の根據に適する港灣要地釜山を擧ぐれば左の如し

(一)釜山港(釜山)韓國現今の開港場中我國と最舊の歴史を有する貿易場にして北緯三十五度六分東經百二十九度三分に位し我對馬と相距ること十八里長州馬關より百二十海里の北西にあり初め宗氏の斯國と交通の便を開くや熊川郡麟浦に日本館を置き天文十二年に至り今の釜山鎮の西隣舊館洞に移し、が寛文十二年更に現時の處に轉し明治九年兩國政府修好條規を訂結して茲に本邦人專管居留地となり次で各國の貿易開港場となりたれども其實地各國人は極めて僅少にして商權の如きは専ら本邦人の獨占に歸せり

地は東萊府に屬し本邦人の居留地は港内の西奥に在り其西に在るは富民洞、本邦人一ツ家と呼ぶに於て北に在るは草梁里(坂の下)及舊館洞、釜山鎮南に在るを絶影島とす絶影島は本邦人之れを牧の島と呼び周圍約八里其形南北に短く東西に長く大陸と相懷抱して釜山港を構成し其東端大陸斗出の一角と相對するもの之れを東而の港門となす門の北側五六の怪巖海中に突出するものあり五六島と云ふ以て入港の標となすべく大艦巨舶の出入を妨げず別に西南の一隅本邦人居留地との間縫かに海峽を形くるあり其間水深三尋若くは四尋吃水淺窄の汽船を通ずるに足る冬期に至れば灣内處々に韓人の魚帳ヤナを架するものあり其業甚だ熾にして狀蜘蛛の巢の如し潮汐は朔望大潮舛舛七尺なり

本邦居留地は幅員十余萬坪北に鋒臺山を負ひ南絶影島に對す中央一丘あり龍頭山と云ふ上に琴平、辨天の二社を祭る之れを龍頭山神社と稱す龍頭の一脈岐れて東岸に突起するもの之れを龍尾山とす上に藤肥州の祠わり語り傳ふ此祠絶影島に在りて韓人の李舜臣を祭るものと相對持して居留の邦人を鎮護するものなりと此二丘は共に老松翁蔚として全山を蔽ひ赭禿の四山中超然獨り美觀を保ちて居留地の異采を添ふ二丘の周圍を市街とす之れを十二區に分ち北に在るを北濱町東に在るを木町、常盤町、琴平町とし南に在るは辨天町、入江町、幸町、南濱町にして西に在るを西町、山下町、桶屋町、鍛屋町とす全街家屋連檐殆んど立錐の地なく漸次居留地の狹隘を覺ふるに至れり家屋の構造は皆な日本風の瓦葺にして市街の秩序未だ間然すべきの点なきにわらずと雖も制度文物の稍々整へるもの盡し之れを韓國

中第一位に置くに足る領事館は龍頭山の半腹常盤町の上東而して港内眺望佳絶の處にあり海關は本町の頭にあり駐劄守備兵營は龍頭の北西麓老松鬱紆の間にあり警察署、郵便電信局、總代役場、共立病院、公立小學校、商業會議所、韓海通漁組合聯合會、第一國立銀行、長崎十八銀行、五十八銀行、日本郵船會社及大坂商船會社兩支店水産株式會社は何れも市街の要處に位置す又た警備艦の常に港内に碇繋するものあり其他旅店、飲食店及び日常需用品を販賣する小商店に至るまで盡く備はらざるなく初めて至るもの猶ほ身の外國に在るを感せず

本邦居留民の數は昨年秋季の調査によれば戸數一千九十九戸人口六千三百七十二人にして其主要なる縣別並に職業別は左の如し

縣名	縣別	
	男	女
縣名	九三五	一、〇一九
山口	九一五	八〇三
長崎	二五四	二五六
大分	二二二	一六三
福岡	一六二	一二四
職業別		
仲買	一九九	七八
菓子屋	五八	三八
貿易商		小間物商
魚屋		大工
		六三
		一九八
		計
		一、九五四
		一、七一八
		五一〇
		三七五
		二八六

左官	桶屋	石工
二一	二〇	二一
日雇稼	料理店	藝妓
三八三	一五	四三
旅店	劇場	
四	二	

貿易の狀況は仁川開港以來稍々商權を奪はるゝの傾向無きにあらざりしも而かも尙ほ當國の中心たるを失はず商品は輸出品としては米、大豆、砂金、牛皮、野獸皮、干鰯、等を主とし輸入品の重なるものは食鹽、石油、金巾、木綿、紡績糸、綿、木燧其他諸雜貨なり但し商業の振否は概して輸出品の如何にあるを以て凶歲に際しては居留地一般に不景氣を極む然れども數年の後京釜鐵道の竣成を告げ西比利亞鐵道と聯絡するの曉に至らば其繁盛或は想像の外に出でん又物貨は運賃、海關稅等を要するが故に幾分か高價たるを免れずと雖とも之れを他の開港場に比して甚だ低廉なり

今明治三十一年度當港に於ける輸出入總額を示せば左の如し

貿易總額 六百六十二萬四千二百拾九圓九拾壹錢

輸出總額 二百八十四萬九千九百四十八圓四十八錢

内 日本へ 二百八十一萬六千六百五十五圓四十八錢
清國へ 二萬八千八百九十七圓
浦埴港へ 四千三百八拾六圓

輸入總額 二百二十七萬二千七百〇二圓九十五錢

内
日本産 百二十三萬六千七百二十六圓九十八錢
外國産 百〇三萬六千九百七十五圓五十四錢
輸出超過 五十七萬六千二百四十五圓九十五錢

にして該年度は其景况實に例年の中位に居たるものなり

漁業は甚だ盛んにして本邦漁業者の韓海に往來するものは必らず此地を經過し其數年々壹千四百五隻の上に出く四時其跡を絶たず春秋の季節鱈鯖鱈魚等の際の如きは一時數百隻の集合を見ること敢て珍しからず産魚の主なるものは鯛、鯖、鱈、鰈、鰯、鱈、鱈、鱈、鰤、鱈、鱈、鱈、鰺、海鰻、鱈、海鰻魚、鮑、海鼠、其他雜魚、海藻類にして鯛、鯨を除くの外悉く本邦漁人の營業に屬し捕魚は直ちに釜山水産株式會社の糶場に於て取扱はれ其金額年々十四五萬圓以上に及ぶを常とす魚類の價額は甚だ低廉なりと雖ども今や逐年高價に赴くの傾向あり此他捕鯨は現時此港内を根據として營業するもの英國ホムリソングー商會の捕鯨船壹組あるのみにして昨年捕獲高十餘頭に及びたり

京釜鐵道停車場豫定基地は釜山鎮の北にあり別に支線を派し居留地に通ずる計畫にして其居留地停車場たるべき地區を北濱町の北海岸を埋築して之れに充つるの豫定にして其面積十萬餘坪なりと云ふ
交通は將來京釜鐵道の竣功を告げ西比利亞東清、京義諸鐵道と聯絡し而して又ニカラガ運河開通の曉に至れば海陸共に相待て世界大貫通海陸交差の要路に當り交通の至便貿易の繁盛蓋し計るべからざる

ものあるべし現今に在りては貿易の不振に伴ひ未だ繁盛の域に達せずと雖とも東部亞細亞諸航路の中心点に常れるが故に交通稍々頻繁なり日本郵船會社及大坂商船會社氣船は大坂神戸より、馬關若しくは長崎對馬より、木浦群山浦仁川、鎮南浦矢津芝罘等の間を往復するものと、大坂神戸長崎より元山浦鹽斯徳の間を通航するものとあり其本邦間の往來の如きは毎日若くは兩三日毎に之れあり運きも猶過日を隔つるものと稀にして其便利なること實に本邦内地邊陲の田舎に勝るものと萬々なり今同港に於ける一昨年中の船舶出入表及其各港間との乗客賃金表を擧ぐれば左の如し

名 稱	入 港		出 港	
	回 數	噸 數	回 數	荷 物 噸 數
日本海船	二九二	一九四、四六九	同上	同上
日本帆船	七一三	二八、七三二	七〇七	二、七六七四
韓國汽船	三七	一四、一七九	同上	同上
獨逸船	三	二、六五五	同上	同上
露濱船	八	七、八〇四	同上	同上

右の内韓國氣船中其八九は本邦人之れが實權を掌り便宜上韓人の名義を借りて彼の國旗を翻へすものなり

本港より各港に至る漁船乗客賃金表

港名	一等	二等	三等
港名	六、〇〇	四、〇〇	一、五〇
對馬	一五、〇〇	一〇、〇〇	四、〇〇
長崎	二一、〇〇	一五、〇〇	四、〇〇
下關	二八、〇〇	二〇、〇〇	六、〇〇
大阪、神戸	一、二〇	八、〇〇	四、〇〇
水浦	二〇、〇〇	一四、〇〇	六、〇〇
仁川	三五、〇〇	二四、〇〇	九、〇〇
芝罘	四五、〇〇	三〇、〇〇	一二、〇〇
塘沽、太沽、天津、牛莊	一五、〇〇	一〇、〇〇	四、五〇
元山	二八、〇〇	二〇、〇〇	八、〇〇
浦鹽	三二、〇〇	一五、〇〇	九、〇〇
鎮南浦			

太邊(機張郡) 釜山の北方八里にあり灣口南に向ひて前に一小島を横へ内に入りて曲折一區を成し丘陵之れを環りて小船を泊し四方の風浪を避くるに宜し本邦漁船の碇泊寄港するもの些なからず大瀆洞は其北岸にあり人家約五十人口百五十余農及漁業を以て生計を営み人情靜穩なり鯛、海鰻、鯧、海鼠、鱧、鰻等を産す漁船飲料水の供給に乏しからず

豆毛浦(機張郡) 本邦人之れを下の大閘と呼ぶ蓋し文録役に於ける古城址の今猶存するを以てなり其口東に向ひ内に入りて稍々屈曲する處あり漁船を容れ風浪を避くるに足る然れども北東の風には波浪

怒りて到底船を泊すべからず灣奥一小川あり漁船四五隻を容るゝに足る干潮の際は其口堆砂に遮蔽せらるゝと雖とも滿潮に至れば通過を妨げず本邦漁船の寄泊し冬期潜水器船の納屋を構ふる處なり人家約四十戸其南方の海岸に村落し農、製鹽、漁業等を以て生計を営み人情靜穩なり産魚は大邊に異ならず西生浦(蔚山郡) 本邦人之れを上の大閘と呼ぶ文録役の古城址豆毛浦と並存するを以てなり聞く當時藤肥州が籠城の苦を嘗めたる有名な蔚山城は則ち此處なりと城險に據り水を控へ殘壘依然として當年の壯闊轉た旅客の情を搖かず西生鎮は其東麓にあり蔚山の本府を距ること陸路六里と稱す人家約五十住民農及漁業を以て生計を営み人情稍々狡獪なり鎮西に運りて一川あり河口稍々狹隘なりと雖も内に入れば頗多の漁船を泊し四方の風浪を避くるに安全なり唯北、東の風強き時は波浪高騰船に入るゝ難しとす此處は本邦漁船の碇泊に便する處にして潜水業者の納屋は常に河内の北岸に構ふ産魚は鯛、海鰻、鯧、鰻、海鼠、鮑、鰻等とすれども冬期此近海に於て鯛を産するは特に他に異なる所なり蔚山灣(蔚山郡) 釜山以北慶尙道中第一の良港灣にして其口南に向ひ深く北方に灣入すること殆んど二里灣内幾支の屈曲ありて艦船を泊するに適す灣の中央西岸に灣曲突入するもの之れを「ウリッウ」瀆とす

瀆は露國太平洋捕鯨會社の捕鯨船の根據港にして又た本邦漁船の碇泊寄港する所なり其南岸丘陵を負へる平坦突出の一小地角は之れを全捕鯨船の裁解地とす地は明治三十二年五月京城に於て之れを韓國

政府より借り得たる處にして龍岑洞に屬し韓人之れを大申と云ふ船舶破撃の場は地角の内面深サ五尋余暗礁少なく岡巒圍繞波靜かなる處にありて碇泊極めて安全なり地角を距る數步約十坪に過ぎざる傾斜而の畑圃あり傍ら清水湧出す之れ又た借區中にありて飲料水供給場たり水量裕かに八隻の船舶に供給して不足を告げず當時縱二間横一間許の屋を建て鍛冶納小屋に充るものありたり

又た灣内に長生浦、新場基、魴魚浦、其他の諸部落あり長生浦は「ウリッウ」灣の北岸に位し八戸二十二、棟數四十餘住民農商漁等を以て業とし人情稍々狡獪なり新場基は灣の北東奥にあり慶州蔚山其他の各市邑に通じ米、大豆を夥産し貨物出入の要途に當り商船の出入常に絶へず本邦商民の來往するもの亦些なからず人家三十餘棟住民農商等を以て生計を營み人情穩かなり更に其北奥一小河の流口に當りて稍々廣く鹹湖を湛ふる所あり鰻鱺の棲息饒多なりしが本邦漁船の出漁多かりし爲め今は漸く減少に歸せり魴魚浦は灣口の北岸にあり屈曲して東、西、北の風浪を避くるに宜し本邦漁船の碇泊寄港する所にして潜水器船の納屋を常に構ふる所なり人家三十餘棟其北岸にあり人情稍々靜穩なり龍岑洞は「ウリッウ」灣の南大申の背面に在りて斜に長生浦と相對す毎年春季本邦裸潛業者の納屋を構へ營業する所なり

海産は鯛、鰻、鮓、鮑、鱈、比目魚、鰈、鯖、鱈、帶刀魚、鮑、海鼠、海扇、石花菜、紫菜、裙帶菜等なり

日山浦(蔚山郡) 魴魚浦と一岬角を隔て、其北方背面にあり灣口東に向ひ内廣く水深十尋余に達する

所あり丘陵之れを環りて西、南、北風を避くべしと雖も灣口巖礁聳ち暗礁多く大船を入るゝに適せず日山津は灣の北奥に在り人家四十余戸概ね巖を以て業とし傍ら漁業を營む人情靜穩なり毎年夏季本邦潜水業者の集る處なり納屋場は其南岸丘陵下にあり其附近清泉の湧出するもの饒かなり鯛、鰻、鮑、海鼠、帶刀、魚裙帶等を産す

甘浦(慶州郡) 其形弓狀をなして東に向ひ稍々西、北、南風を避くるに足る人家約五十其北及西南奥に村落す住民は漁業を營み傍ら農業をなす人情靜穩なり此地薪に乏しく飲料水は稍々之れあり本邦潜水業者の時々寄港する所なり鰻、鱈、鮓、鯛、鮑、海鼠等を産す洞民地曳網を業とずるもの數組あり干鰻の産額些なからすと云ふ

治通(長鬐郡) 本邦人之れを一ツ家と云ふ韓人の家一戸孤在する所なるを以てなり治通項より東に向つて延びたる丘陵の南面にありて僅かに北東の風位を避け漁舟を泊するに足る冬春の候本邦潜水業者の納屋を構ふる處なり治通項は人家約三十戸海岸に村落し農及び漁業を以て生計を營み人情靜穩なり鰻、鮓、鯖、海鼠、鮑、石花菜、淡菜等を産す

牟浦(長鬐郡) 灣口南に向ひ其内一區環をなし丘陵之れを廻り四方の風浪を避くるに宜しく就中東北の風には極めて安全なり灣内廣からすと雖とも大形の和船を泊するに適す漁船の碇泊には此近海中屈指の良港にして本邦漁船の碇泊寄港するもの些なからず又た春季蔚陵島に往來する韓船の常に風待ち

の爲め寄港する所なり人情穏かにして薪水の供給稍々足ると云ふ

九連浦(長鬚郡) 西、北、東の避風に宜しく漁船の碇泊には牟浦に次ぐの要港なり薪乏しく飲料水の供給に適す人情靜穩なり

迎日灣 本道の東北面にある一大海灣にして長鬚迎日、興海、盈徳、寧海五郡の沿岸に跨り其南方日本海に向ひて突出する岬角を冬乙青串と云ひ本邦人米ヶ鼻と呼ぶ是れ朝鮮南部の最東端にして北方寧海郡丑山浦と相對し其間穹窿状を呈し水深く懐廣く幾多の大艦巨船を容るゝを妨げず然れとも東北の風浪を避くるに山なし該處は其海勢東北より來る寒潮流域の衝要に當るか故に鯨族、鱈族、鯛、鰈、鱈、海頭鰯魚、鯔、海鼠、鮑、石花菜等の水産饒多にして特に鯨族の來遊夥し露國捕鯨船の如き從來最も此漁場を珍重し一昨年以後に至り本邦捕鯨船と其砲火を競ひつゝあり灣の西奥に極まる所一川を扣へて部落あり之れを浦項と云ふ人家三百余戸人民商、漁、農、及製鹽を以て業とす地は慶州、長鬚、迎日、興海、安東等の諸郡邑に通じ米、大豆を主産し貨物輻輳商估繁盛船舶出入多きと實に釜山以北元山に至る沿海岸中之れを第一位に置かざるを得ず其項前に注ぐ一河は其幅廣からず且つ淺砂の憂なきにあらずと雖も大潮に乗れば漁船及稍々大形の韓船を出入するに足り船舶の碇泊常に絶へず河中鰻鱺を産し昨春本邦漁船の豐漁を試みたる處にして漁場の狹隘なる爲め爾來著しく減少するに至れり又た秋冬の候多く鮭を産し其捕獲は迎日郡守の專權に屬し漫に他人の捕獲を許さざるの規定なり河を隔て、鹽

あり廣柔數十町當時製鹽釜數三十六箇處あり何れも入れ濱の法によりて製造し年々五十余石を産すと云ふ

丑山浦(寧海郡) 九鹽浦より迎日灣頭を直過すること二十里の北岸にあり灣口東に向ひ西南の風位を避くるに安全にして其内廣く水稍々深く百噸以内の船舶を泊するに足る良港にして附近に有望の漁場を控へ規模の大なる漁業根據港として有望の處なり冬春の季節本邦潜水器船の納屋を構ふるもの十餘に及ぶとあり又た秋季本邦鮭網業者の山漁する者あり人情稍々頭險往々盜難の次に懼り或は争鬪を惹起するものと珍しからず産魚の主なるものは鮭、鯛、鰈、鱈、海鼠、鯨等なり

以上は慶尙道中釜山以北にして以下に述ぶる處は釜山以南なり

多太浦(東萊府) 富民洞の一小岬角を隔て、釜山居留地の西約三里にあり人家稍稠密本と水軍鎮の在りし處にして灣形東南に向ひ灣入深く避風に適し本邦漁船の汲水碇泊に便するものと些なからず

洛東江口 釜山を距るものと約十二海里多太浦の西加徳島の東北深く灣入せる處にあり江は韓國五大江の一にして源を北の方江原忠清二道を界せる太白山より發し慶尙道に入り左右兩道を劃し尙州星州等繁華の市邑を繞りて密陽より金海東萊二郡の間に下り此に至りて海に朝する者にして其長さ五十余里と稱し舟楫を通じ貨物運輸に便す三浪津、院臨津、龜浦、河端等は何れも其要所に當れり江口流洲より成る一島あり鳴湖と云ふ韓人の製鹽に従事すると盛んなり江口鰻、鮭、白、魚蛤、紫菜其他雜魚を産し

殊に鱈鱚の好漁場にして春秋の季節本邦漁船の出漁頗る多し

加徳島 カトクジマ 熊川郡 クマカワ に屬し周圍約八里餘北は僅かに安骨に對し西は數座の小島を隔て、巨濟島に而し東北絡東江の流注を受け東外洋に枕めり大船を泊すべき港灣なしと雖とも東西而には漁船を繋ぐに足る港灣數ヶ所あり其北端大陸との間水淺くして干潮の際は漁船の通過も猶注意を要する處あり鱈、鯨、鰈、鮫等々の漁利に富み冬季韓人の魚帳を架するもの頗る多く殆んど船舶の航路を迷はしむることあり近海本邦漁人の好漁場なり

安骨 アソク (熊川郡) 洛東江口の西大陸に在りて南加徳島と相對し其間約一里の海峽をなし海深からずと雖とも雜魚の漁利に富み本邦手繰網船の常に出漁する所なり

鰲浦 アソ 熊川郡に屬し郡邑を隔つる僅かに十余町にして加徳島と巨濟島との間所謂加徳水道の北西奥に位置す灣口東南に向ひ内に入りて稍々廣く水深からず雖とも漁船を泊し風浪を避くるに適し其港の名あり往昔木邦との貿易互市場にして日本公館の設けありし處なりと云ふ人家三十余戸灣の東北岸に在り人情稍々狡獪なり近海鯛、海漫其他の雜魚多く本邦手繰網船の出漁するもの些なからず其捕魚は韓人の仲買人ありて之を販く又わたあを産し本邦鯛網船餌料の供給場なり

巨濟島 コシエト 巨濟郡守の蒞治する所にして馬山浦灣口の南統營の東に横はる一大島なり朝鮮三大島の一にして南北十二里東西廣き處八里あり東南大海に枕みて近く對馬と相對し西北内海を隔て、大陸に而し

其距離僅々數町に過ぎず東北加徳島と相持して其海門は馬山浦灣山入の航路たり島中雞籠山峙ち其他丘陵山岳些なからず周邊港灣屈曲多く其形狀恰も敗荷に似たり殊に其西南而には無數の小島ありて之れに屬し幾多の良港を控へて船舶到る處に碇泊の便を得べし全島の周邊好漁場に富み現時本邦人漁業の主なるものは其大陸との間鎮海灣に而する一帯及東南而に於ける夏秋の鱈魚東北而に於ける春季の鯛魚南西而に於ける冬期の海鼠、鮑等の潜水器業東南而に於ける春秋初期の鱈魚等にして又た秋期の海鼠漁及鱈魚は將來最も望を屬すべし今島内重要な各港を擧ぐれば左の如し

玉浦 タム は島の東而にあり灣口東北に向ひて深く西南に灣入し内廣く水淺からず殊に其北奥は曲折一區をなし丘陵之れに環りて漁船を泊し風浪を避くるに宜し人家四十余戸舊と水軍萬戸の在りし所なり本邦漁船の出漁するもの些なからず人情狡獪なり海岸井泉あり飲料水の供給に饒かなり

知世浦 チセ は島の東而玉浦を距る約三里の南方にあり灣口東南に向ひ曲折南西に入り水深く暗礁少なく環らずに丘陵を以てし風浪を避くるに宜しく艦船を泊するに適し實に馬山灣口の要港なり人家四十余戸其内稍狹隘の感なきにわらずと雖とも數隻の艦船泊するに適し實に馬山浦灣口の要港なり人家四十余戸其南岸にあり本と水軍萬戸の治せし處にして今に癩術の址を存す人情不良往々本邦漁夫と衝突を致すことあり夏秋の候灣内鯧を産じ本邦漁業者の望を屬す漁船の碇泊に便する所なり

齋助羅 ササノ は島の南フオートンの西北内而にあり灣口南に向ひ内に入りて稍々東方に屈曲し風浪を避

くるに宜し此處は鯉の好漁場にして夏秋の候愛媛縣鯉網船の出漁して納屋を構ふるもの毎季八九組を缺かず人家四十余戸其東岸に在り人情不頁にして本邦漁夫と争闘を惹起すること屢々なり飲料水饒かにして薪の供給又た乏しからず

都長浦 島の南端フイソゲル角(本邦人之れを「トーザンゲ」の鼻と云ふ)の東方内面にありて屈曲一區環をなし漁船を碇泊し風浪を避くるに宜し冬季本邦潜水器業者の納屋を構ふるものあり人家三十餘其岸に村落し人情穩かに農及漁を以て業とす夏秋の候鯉漁業熾なり

古多太浦 本邦人之れを喧嘩浦と呼ぶ蓋し往年本邦漁夫の激しき争闘を爲したるものとあるを以てなり島の南而「フイソゲル」角と「コルベツト」岬との中央奥にありて其口東に向ひ左右に灣入したる所を云ふ灣内廣からずと雖も北西南の三面山岳屏障し漁船を泊し風浪を避くるに宜し灣内二村あり北にあるを多太浦と云ひ人家五十余戸人民農及漁業を以て生計を營み南にあるを多太浦と云ひ冬春の候本邦潜水器業者の納屋を構ふるもの些なからず人家十二戸村内五箇所の藪山あり村民の生計概ね之れに依る人情昔日に異り漸次温順に赴くと云ふ飲料水は一小河に汲み薪は乏しからず

猪仇味 古多太浦と一丘を隔て「カルベツト」岬の北にあり港口西に而し高山左右に聳立し西南前而大鶴竹島等島嶼の屏障ありて好錨地と稱せらるゝ所なり

竹林浦 島の西面にあり鶏籠山其後を屏障し蜂巖島其前に横はりて恰も大湖を湛ふるが如く内廣く

水深く暗礁少なく十余の艦船を泊するに足る實に島中第一の投錨地たり巨濟郡邑は其北與海岸に接近して在り人家稠密船舶輻輳の一盛區なり

栗浦、加背梁猪仇味と竹林浦との間にあり共に船舶を泊し風浪を避くるに宜し

高夫郎浦 巨濟島の南西に横はれる蜂巖島(秋元島)の北東而栗浦と相對する所にあり港形穹隆形をなし丘陵を負へ東巨濟島の一角と相持して漁船を泊し風浪を避くるに宜し常に本邦漁船の碇泊に便する所にして秋冬の候潜水器船の納屋を構ふるもの些なからず人家僅に四五、散點して其海岸に在り人情靜穩なり

永登浦 島の北端にあり且乃梁灣に臨み漁船の碇泊避風に宜し人家約四十其海岸に村落し人情稍々穩かなり井泉あり清水饒かにして本邦漁船の汲水、避風等の爲め碇泊寄港する所なり

屬島は多しと雖も稍名あるものは蜂巖(一名秋元)龍草、比珍、竹島、大徳、小徳、毎々、閑山、七川諸島にして就中閑山、毎々二島を稍大なりとす閑山島は文録の役李舜臣が據て以て我軍を窘めしによりて名有る所七川島は秋期秋季本邦鯉網船の出船最も熾なる所なり

馬山浦 明治三十二年五月よりの開港場にして昌原府に屬し加徳島と巨濟島との間を過ぎて北西大陸に灣入するあと五海里の灣奥にあり釜山を距ること約四十海里灣内水深く暗礁少なく大艦巨舶を繋ぐに足り舞鶴山南に聳へ盤龍山其北を圍み風浪を避くるに安全にして誠に良好の港灣なり地慶尙道樞要

の各市邑に通じ貨物集散の要衝に當り商業上樞要の位置を占む唯灣入深きに失し漁船の寄港には往復約六十海里の迂路を取らざるべからざる不便あるを遺憾とす

韓人街は灣の北奥にあり人家一千と稱し商賈連擔船輻輳古來繁盛の區たり此處は固と慶尙道貢米の集積所たりし所にして今猶當時の倉庫の遺棟を存す韓人の商品中最も熾なるのは鹽漬魚の賣買なり是れ等の魚類は概ね本邦人の捕獲物を買ひ集めたるものにして其販路は忠清全羅の方面に在りと云ふ本邦人中韓人街に在りて日語學校を開き以て韓人子弟を教育するものあり大に韓人の信用を買ひ當時生徒十余名内外にして漸次増加に赴くの傾向ありたり

本邦居留地は韓人街と相距るあと約二十町の南海岸に在り當時領事館を除く外海關居留民役場通漁組合聯合會支部其他居留民一同は韓人街に假住雜居し其數本邦人百五十八人清人九人雜貨商石工、仲仕等其大部を占め未だ商賈繁昌の域に至らず蓋し居留地の場所は元來韓人の市街に遠隔孤懸し道路の交通其他諸般の不便を感じ且つ何れも小資本の商人のみに止まるか故に相當の家屋を建築し盛んに商品を賣買取する運に至らざりしものなりと雖も惟ふに築港其他居留地諸般の準備を整理するの曉に至らば漸次繁盛の域に赴くに至るべし

商業の將來望を屬すべき主なるものは輸出品としては米、大豆、牛皮、牛骨、砂金等輸入品としては木綿、金巾、木燧、食鹽、紡績、綿、金物類とすれとも是れ等は現時に在りては何れも一旦釜山を経て再輸

出入するの狀態なり

彼の一時世上の耳目を惹きたりし露人居留地及粟九味灣の地區は本邦居留地と相隣して其南方海岸に在り前に月影島(本邦人猪島と呼ぶ其幾分之れ又た借區中に在り)を扣へ水深くして五千乃至七八千噸の艦船を接近せしむるに足る一たび之れに築港を加ふれば容易に其好の波止場となすを得べし然れども多數の艦船を容るゝに當りて灣形稍狹隘を感ずと云ふ當時領事館、煉瓦製造場其他二三の建築物あり聞く現時に在りては既に石炭倉庫建築及築港の計畫に着手し又た灣口砲臺の建設中なりと此事未だ其眞偽を審かにせずと雖とも露國の茲に意を注ぐもの實に一日にあらざるを以て之れを見れば道途風説の傳はる所又未だ其虛ならざるを必ずべからざるなり

交通は商船會社漁船の時々寄港するものありと雖も貨物の運搬に供すべきもの少なきを以て未だ定期寄港の運に至らず現時専ら釜山曳船會社より隔日一回一小漁船を回航せしむるものあるに過ぎず産魚の主なるものは鯛、鱈、鰻、鰯、鯉、鯽、章魚等にして從來本邦漁船の出漁するものありと雖とも灣入深きに失したるの不便あるを以て港内に寄港するもの多からざりしが開港以來本邦人の需用其他諸般便利の途開くるに隨ひ其出入幅狭するもの漸次多きを加ふるに至るべし

臥島 本邦人之れをアカマと呼ぶ馬山浦一口と巨濟島との間に横はる一小島にして周圍約一里人家二戸其南而巨濟島と相面して凹入する所にあり漁船の碇泊避風に宜しく本邦漁船の寄港するもの些な

からず韓海通漁組合聯合會所設の郵便函あり李明信なるもの之れが保管をなす島中清泉湧出の場あり其量饒なり近海鮑、鰓、鮮等を饒産す

鎮海灣 巨濟島と大陸鎮海郡と相懷抱する一大海灣にして從來海關に「セルフィア」内澳と記する所なり此一帶の海灣は夏秋の候鮑の好漁場にして就中鎮海郡に接近する所を木邦人之れをちねうちと呼び木邦網船の出漁するもの甚だ熾んなり

灣内水深くして暗礁少く環らずに巨濟島と大陸との諸丘陵を以てし風浪を避くるに宜しく多數の大艦巨舶を碇繋するに適す其鎮海郡沿岸一帶の地は之れを藍浦と總稱し一昨年中露國政府より韓廷に向つて借入れを申し込み一時世上の物議を想起したるあとありしによりて有名なる藍浦とは實に此の地の一部に屬するものなり當時露國は物議の沸騰するものあり且つ韓廷の之れを拒絶せるによりて其目的を達すること能はざりしと雖も爾後露艦の該方面に來るもの概ね此處を以て碇泊根據の用に供し現に灣内水底の暗礁等は悉く標榜を附して其出入の便を爲し恰も露國專有の海港たるなきやの感あり

昨年夏季余一輩に乗じて馬山浦に到り途此處を過ぎ幾多露艦の傲然として碇泊若くは游弋する恰も自國の軍港に在るが如きの状態を目撃し且つ其計畫施設する所専心銳意屢々敗れ而して屈せざるを見私かに露國眞意の在る處を察し轉た感慨の狀に堪へざるものあり夫れ本港の位置たるや我邦對馬と相待て朝鮮海峡の要衝を扼し其最も近き處僅々五十余海里雲煙相望の間にあり實に東亞海上の死命を制

するの咽喉たり而して露國の東邦に向つて其非盟の慾を逞ふせんとするや一舉西比利亞の廣原を併せて日本海に出で再び機に乗じて渤海灣頭の旅順を得鐵路滿州を横斷し今亦將さに滿州の地を擧げて悉く其領有となさんとするもの、如く勢の向ふ處鋒銖の那邊に止まるべきやを知る能はざらんとす想ふに交通の機關と軍港要害の地とは露國の東邦經略上必須缺くべからざる要具なり然るに西比利亞鐵道及東清鐵道の成功して其陸上交通機關の完備を爲すは將さに期年の内にあらんとすと雖も其港の要害に至りては浦鹽斯德以外僅に之れを旅順に得たるのみ且其位置恰も朝鮮半島を以て之れを隔離するが故に形勢甚だ不便にして旅順浦鹽港との間別に樞要の海港を得て之れが聯絡を圖らざるべからざるの要あり曩に仁川に地區を買入れ次て之れを本浦に得更に之れを馬山浦及其附近に求めて其目的を達するに汲々たるもの洵に之れが爲めに外ならず露國の勢力を東邦に伸ぶる所以のものは一に東邦の肉を割きて自家口腹の慾を逞ふせんと欲するものにして其一舉手一投足は東邦の平和を攪亂し及び我邦の前途に危險を遺すもの況んや彼をして一たひ此海港に割據して東亞海上死命を制するの權力を握らしめんか猶ほ暴虎に貸すに翼を以てするに均しきものにして是れ豈に我邦の枕邊酣睡の虞のみならんや惟ふに我邦萬年の大計を畫するもの先づ東邦諸國の和平を計るにあり東洋の和平を計るもの實に露國東漸の勢力を防ぐにあり露國東漸の勢力を防がんと欲するもの須らく夙に彼れが東邦經略上の要具を抑制して務めて其勢力を用ふるの地を得ざらしめざるべからず是れ獨り東洋の和平を計るのみな

らず實に我邦自衛上必要の急務たるを信する也

顧みれば我國の大計を誤るもの甚に之れを遼東遼州の際に失し次て彼等か旅順膠州等割據の際に失したり而して今や東亞の時局は暗澹として愈々風雲の急を告ぐるものあり聞く現に我邦時流の中滿州の山河を以て露國の取るに委し朝鮮を以て之れを我邦に収めんとするの迂議を抱くものありと若し夫れ滿州の山河にして一たび彼れの手に歸せんか其積力の集まる所其私慾の赴く所次て來る所は必らずや此地に在るものと彼れが東漸經營上必然の順序たるを忘るべからず是れ豈に我國の前途悚然として恐るべきものにあらずや想ふに是れ皆地理に暗く活機活勢に通せざるの致す所なるべし今にして之れが大計を立てざるものは終に國家萬年の憂を遺すに至らんか敢て專局に感じて其意を記するものと爾り

統營(國城郡)慶尙道本土の最南端に突出せる一海角にして巨濟島の西端と相對する處にあり曾て忠清、全羅、慶尙五道の水軍統制使を置きたるに依りて統營の名ありと云ふ山に據て城あり郭壁を環らし周圍殆んど五韓里城内高樓大厦の結構些なからず是れ現時地方大隊の鎮在する所にして隊は兵數は八百と稱し兵は本と本邦武官の教導を受けたる士官某の訓練に成りし所なりと云ふ但し武器備はらず節制整はず緩急用に應ず可らざるやの觀あり城外家屋櫛比海岸に連り其數五千と稱し往時は人情殊に不戾の名ありしと雖とも日清戰爭以來面目を改め現時に至りては稍々靜穩に歸せり市場あり毎日六回

の定期開市をなす商估輻輳船舶出入蓋し慶尙道沿岸第一の盛區たり

統營の前面に横はりて方山、楛珠の兩島あり大陸回入の處と相對して港灣を形くり水稍淺く大船を泊するに足らずと雖とも稍々大形の和船を泊するに足り本邦漁船の寄港碇泊して魚類の販賣日用品の買入等を爲すもの些なからず就中手線細船の出漁するもの四時常に絶へず

灣の西方疎水あり一橋を架す幅約二間西外洋に通ず滿潮の際目山に漁舟を行ふことを得べし語り傳ふ文錄の役我か將士の開鑿せし所にして當時の要害たりし所なりと未だ其信偽を審かにせず

近海鯛、鱈、鱚、鮑、海鼠、あなたさ其他の漁利饒かなり

崙梁島(固城郡)統營の西、南海島の東にあり能良島と相抱き兩島周圍各々約七八里其間一海峽をなし小舟を通ずべし島中魚類の販賣に便する所あり鯛細船の出漁多く又た秋冬の候潜水器業者の出漁納屋を擠ふるもの些なからず近海鯛、鱈、鮑、海鼠を主とし其他の魚介を饒産す

三千里(普州)泗川の西大芳鎮の東にあり新霽、昌美、赤梁諸島と相對し家屋一百余戸毎月六回の開市あり商船輻輳の一聚落にして本邦漁船の捕獲物販賣場なり

欲知島 宮内府明禮宮の直轄に屬す統營を距るものと八里の西南海中にあり其形稍々楕圓を爲し東西に長し東方右側一灣あり海圖に之れを東港と書し灣入深く丘陵環り四方の風浪を避け水深九尋内外にして船舶の碇繫に適し及び巨艦の出入を妨げず蓋し海島良港なり

全島六部落あり内二落は港内に位し一を邑浦と云ひ人家散在するもの三十余戸一を坐釜浦と云ひ人家四戸あり人情靜穩にして農及漁業を以て生計を營み薪及飲料水に乏しからず坐釜浦は通漁組合聯合會の郵便函を置く處にして金敬一なるもの之れが保管をなす本邦漁船の碇泊に便し本邦潜水器業者の納屋を構ふるもの些なからず

島の南而の海洋は黒潮暖流の影響を受け魚類の棲息回游饒多なり本邦漁船の出漁する好漁場にして鯛、海鼠、淡菜、鮑等を産す

南海島 南海郡守のある所にして東蛇梁島を挾んで巨濟島と相望み北は僅に本土と隔て、海峡をなし西全羅の防踏島と對し南大洋に而す南北十里東西七里許南海邑は其西而にあり郡守の蒞治する所にして海島中の一聚落をなす邑を隔つること八里島の南端に當りて二三の小厠島あり其内島島は西より東に延び形瓢に似て中央兩而より凹入僅かに相繋ぎ南而一小島と相懷いて風浪を避け船舶の碇泊に達す本島の相位置恰も本邦漁船東西去來の要途に當りて其輻輳頗る多く又た潜水器船の納屋を構ふるもの常に絶へず人家五六戸其海岸に散在し人情靜穩なり此處は通漁組合聯合會の郵便函を置く所にして金桂仁なるもの之れが保管をなす

近海鯛、鱒、海鼠、鮑、淡菜等の好漁場なり

以上は慶尙道に於ける各港の狀勢にして今其間の距離を示せば左の如し

從釜山至以北丑山浦里程表

地名	各地間里程	復里程	直航里程
釜山	七、〇	八、〇	
太田	一、〇	一四、〇	
豆毛	六、〇	一八、〇	
西生	四、〇	二二、〇	
長生	四、〇	三二、〇	
口山	一、〇	三三、〇	
甘浦	三、〇	三五、〇	
治浦	一、〇	三六、〇	
牟浦	二、〇	三八、〇	
九浦	一、〇	三九、〇	
丑山	一八、〇	五六、〇	

從釜山至以南海島

地名	各地間里程	復里程	直航里程
釜山	〇〇、〇		
多太	三、〇		
洛東江口	二、五	五、五	

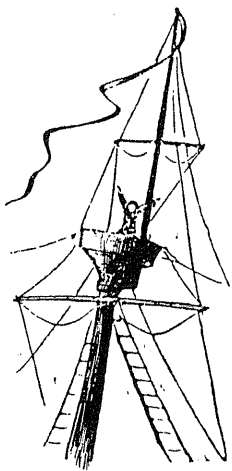
統竹高猪古都燕知玉加
 林夫仇多長助世鳴
 營浦耶味太沔瀛浦浦角

五、〇 三、五 二、〇 五、〇 二、五 二、五 五、〇 四、〇 五、五 四、五

四四、五 三九、五 三六、〇 三四、〇 二九、一 二六、五 二四、〇 一九、〇 一五、〇 九、五

二八、〇 二七、〇 二四、五 二四、〇 二〇、〇 一八、〇 一七、五 一五、五 一四、五 九、〇

(未完)



洛東江口 地名 河東江口 三千里 蛇梁 臥船 馬山 齊浦 地名 南島 姑采 統海 鋼海 臥海 齊浦 安骨 加德鳴北角

外海支路

沿岸支路

各地間里程

各地間里程

一〇、〇 五、五 六、〇 八、〇

八、〇 八、〇 九、五 三、〇 四、〇 七、〇 二、〇 四、五

複里程

複里程

五〇、五 四〇、五 二七、〇 二一、〇

四五、五 三七、五 二九、五 二〇、〇 一七、〇 一三、〇 一〇、五

直航里程

直航里程

四九、五 三九、五 二、〇

三八、〇 三四、〇 二六、〇 一七、〇 一四、〇 一二、〇 一一、〇 九、〇 八十二

明治三十四年三月六日印刷
明治三十四年三月十日發行

編輯兼發行人

東京市芝區西久保巴町廿八番地

葛 生 修 亮

印刷人

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

大 野 喜 六

印刷所

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

成 功 堂

東京市芝區西久保巴町廿八番地

發行所

黑龍會本部

出版廣告

最新滿州圖

(交通解説附)

一部代價 會員(特別割引買價)三十錢
定價 五十錢

露國東清鐵道會社最近の製作に係り、更らに本會員某々の、實地踏査して修正加除したるもの、其範圍は黑龍江以南支那滿州一帯を包轄し、之れに附するに各市邑都府間の精確なる里程表等を以てせり、一たび之れを舒ふれば以て圖内に於ける、都市、鐵道、河海、林野、鑛山等細大之れを審かにするを得べく、東亞の大勢を知らんと欲するに於て必須の珍品なり
右は今般本會に於て印刷に附し、本月十日出來の筈にて、會の内外を問はず普ねく之れを天下同好の士に頒布致すべく候間此段廣告仕候也

三月

黑龍會出版部

又本會員にして本圖御所望の方は入會金及會費御差出しの節其代價を添へて御申込あるべし

黑龍會調查部編輯

一黑龍沿道州の概勢

近刊

1901年

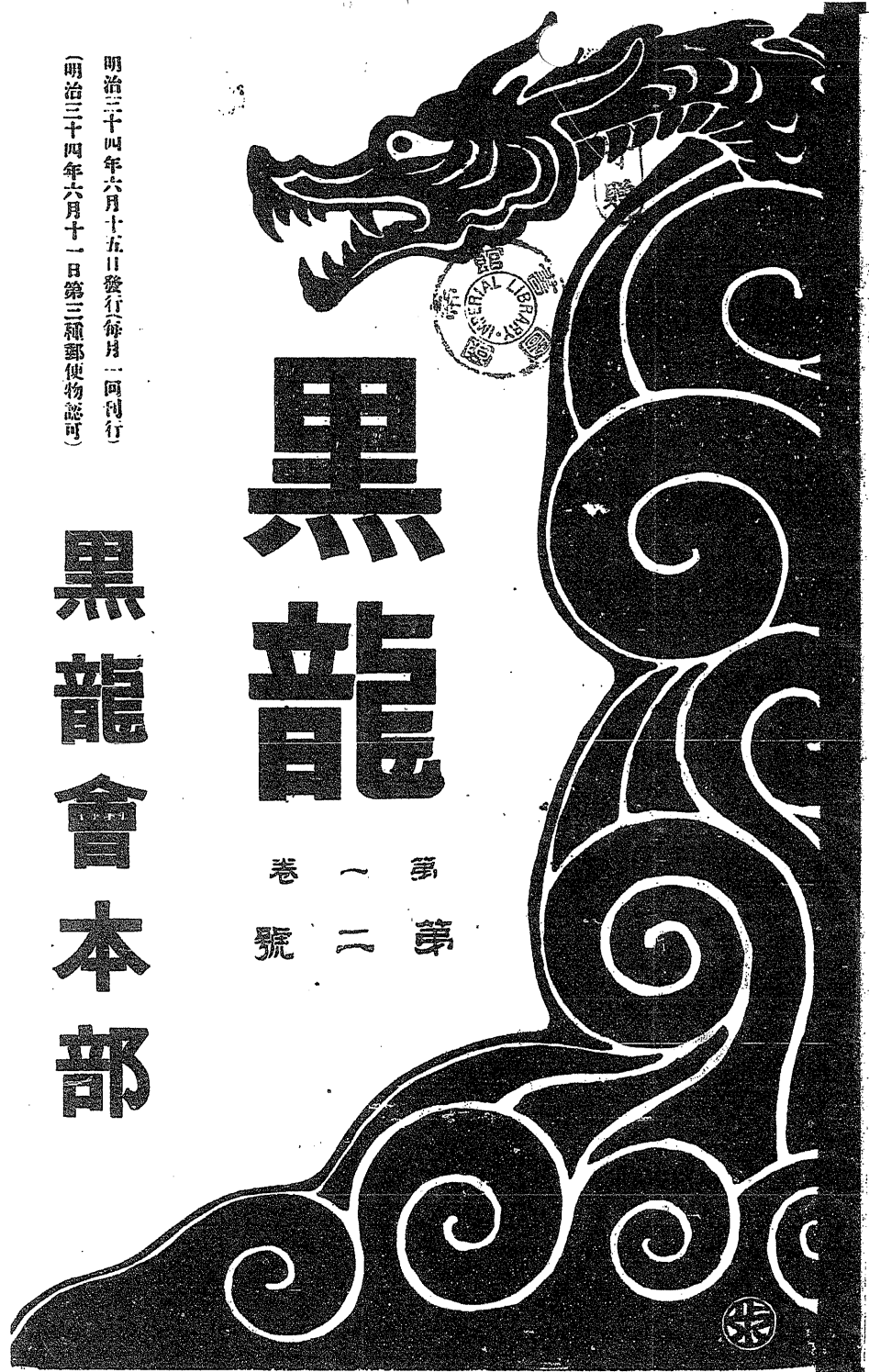


黑龍

第一卷
第二號

黑龍會本部

明治三十四年六月十五日發行(每月一回刊行)
(明治三十四年六月十一日第三種郵便物認可)



1901.6

開大とは何ぞや曰く大日本の大を開くなり。天道の大を開くなり。開き且つ啓いて以て世界の大に應じ。以て精神力の大を實にする所以是れなり。詳くは之を十數回連載の本論に徴せ

審 勢 見之不取 思之千里

韓國沿海事情 (承前)

萬生修亮

江原道

本道は本と穢貊の地にして、國の東面にあり南、慶尙道に鄰し北、咸鏡道に連り北西は僅かに黃海道東隅と境を接し西、京畿道及忠清道と土壤を交へ、東面一帯は海に濱して遙かに我邦の山陰北陸諸州と相對す、地勢南北に長く東西に狭く、長白山脈の南下せるもの道の西方に蟠廻して金剛、雪岳、五臺、頭陀、太白等の諸名山を形成し、状恰も臥雲の天際に蟠るに髣髴たり、山脈の西は之れを嶺西と稱し、重山複水の間風氣高寒地瘠せ民朴に古來高士隱棲の境と傳へらる、此處は即ち古昔の貊國の故都、日本史家の唱へて、素戔雄尊の占領地なりしと爲し、又た現今韓廷戰時の避難場に備ふる奉川府のある所にして、往時は樹木繁茂し

木材及山峽の間に野生する人參の好産地なりしと雖も近歲に至りては民口稠密村落相接し、山野漸く開墾せられて山に寸木なく且つ人參の出るもの稀れなるに至れりと云ふ、嶺東の地は、局促東海の濱に迫りて、地勢甚だ狹隘に、其最も廣しと稱せらる、江陵郡下も、尙は數里に亘るの平地を見る能はず、且つ土壤礫礫、農耕に適せざるが故に、殖産の見るべきものなく、米穀の如きは特に其供給を三南の地より仰がざるを得ず、

海岸の形勢は、南北延長九十里に亘り、全岸殆んど一直線を以て劃せられ、平砂相連りて、地曳網の好漁場に富み、鰻を産すること殊に莫大なり、然れども港灣の屈曲及島嶼の出没するもの極めて乏しく、船舶の航行に不便を感ずる事些なからず、殊に冬期にありては、北風連日胡砂を吹き、海濤荒れて漁舟の航海頗る困難なりと云ふ、

氣候は、寒潮の流域に當れるが故に、冬期は寒威酷烈にして十二月頃より二月に至る間、江陵、襄陽沿岸に接近せる半淡半鹹の池沼を凍らし、氷上人馬の往來に便するに至り

盛夏の候は、寒暖計九十度以上に昇騰するを常とし、七八月の間は降雨最も多く、余が巡廻したる明治二十二年度の如きは十八日間十二日の降雨に遭ひたることあり、之れを土民に聞くに同季間は毎平常に斯の如しと、夏季雨量の多きこと以て知るべし、然れども春、秋、雨季は降雨至つて少なく、唯冬期降雪多きことは韓國中第一と稱せらる、所なり、

海産は鰻、鱒、鱒、鯛、鮑、海鼠等にして其棲息回游饒多なり、然れども行舟不便の地なるが故に、潜水器船を除くの外、未だ本邦漁船の出漁多きに至らず

本道は、觀察府を奉川府に置き管區二十六郡ありて、其内嶺西に位するものを奉川、原州、淮陽、鉄原、伊川、寧越、旌善、平昌、金城、平康、金化、狼川、洪川、揚口、麟蹄、横城、安峽の十七郡とし、嶺東則ち海濱に位するを江陵、襄陽、三陟、平海、通川、高城、杆城、蔚珍、歙谷の九郡とす、今其商港浦口及び漁業に適する港灣要地を擧ぐれば左の如し

鬱陵島(奉川府直轄) 平海郡、越松浦の南微北に當り、四十余里の海中にある孤島にして、別名之れを武陵又た羽陵とも書す、則ち古の干山國にして本邦人は松島と呼ぶ、世人の本島は、大小六箇の島嶼、若くは竹島、松島の二島よ

り成れり、と爲し、或は地圖に之れを記入しあるは往々見る所なれども、是れ等は何れも誤りなるが如し、本島は、素と金剛山脈の一支流れて東海に入り、峙立して其頭を顯はしたるものにして、面積約七十五方哩、中央に一の山岳聳ふるものあり、其高さ四千呎、峻巖突兀四周に之れを擁して、遠く望めば青嶽の浮出したるに髣髴たり、又た船舶を碇泊するの良港無く、商船漁船の碇泊困難にして、風濤少しく荒るゝときは、島の北面に位する海濱の平地に船を曳き揚ぐるを常とすと云ふ、

全島平地殆んど之れ無しと雖、此島の地質は古來落葉枯草の堆積腐化したるものより成れる、所謂黑土の一種にして、土地膏沃殆んど肥料を要せず、只稀れに燼灰等を以て耕墾することあるのみ、農産の主なるものは大豆、大麥、小麥等にして、殊に大豆は粒大に質宜しく、直接に本邦に輸出せらる、産額年々四五百石に及ぶと云ふ、林産には樺、桐、松、白檀等あり、就中樺は徑六尺位の大材を出し、桐は本邦にて松島桐と稱し唐木細工中の珍重する所、白檀は以て香料に供すべく、何れも巨大のものを産し、往時は此の種の樹木全島に鬱茂して殆んど無盡蔵の觀ありしも、近歲に至りて本邦人の熾んに之れを輸出したりし爲め、其濫伐の結果

顯年減少に赴けり、此他山葡萄の類亦た些ながらず、海産は魚類及び鮑、海鼠の類に乏しからざれども、近海の水何れも百尋乃至百五十尋の深きに失するが故に本邦艦艇の春季往來するものあるの外、魚産は未だ盛んならず、唯沿岸の淺處に採取する石花菜は種類良好其産殊に大なり、又た秋季山鰯の類非常に多く、島民は之れを撲殺し、肉は乾燥貯藏して年中の副食物となし、脂肪は溶解して燈油に供すと云ふ、想ふに世人の稱して信天翁の棲息夥しとなすは此鳥の訛傳ならん、其天産の豊饒なること蓋し韓國中他に比類なしと云ふべし、

島中一泉あり清水多量に湧出す、聞く此水は少しく酸味を帯び島民之れを藥泉と稱し、疾病の際、用て藥餌に代へ効驗見るべきものありと、察するに之れ本邦神戸邊に産する平野水、紀州の金山水等と同種なる炭酸泉にあらざるなきか

本島は往時所謂倭寇の一時據て以て根據としたることあり其他我邦とは殊に密接の關係を有し、具原益軒の如きは斷じて之れを我邦の所屬なりと論じたることありたれども、

久しく其所屬を摸稜の裏に經過したりしが、明治十六六年の頃、本邦人某工人を派して伐木に従事したるに、韓廷抗

議する所あり、我邦之れに譲りて其所屬始めて一定するに至れり、明治二十三年に至りて、韓廷金玉均を以て東南諸島開拓使兼捕鯨使に任じ、白春培を以て従事官となし、該島の開拓事務を辨理せしめたりしが、翌年京城の變ありて果さず、其後島民徐敬秀を以て越松萬戸に差定し、住民の繁殖を計り、外國人の樹木伐採を防禦せしめたりしも、本邦人は依然として前狀を維持し、唯貨物賣却の時、口錢二分の二を官に納れ、木材には船一隻に百兩(我二十圓)を納れ以て公然の密貿易を爲せり、次て明治三十一年の頃、該島の伐木植林の權利露人の手に委することとなるや、露人は直ちに韓廷に照會して外國人(即ち日本人)の本島の木材を盜伐し、及び島内に居住するを禁せんことを迫り、外部は更らに之れを我が公使に照會し、我公使は一時本島に在りたる本邦人に退去を命じたることありしも、其後邦人を以て急に同島を撤退せしむるは事情の能はざるものあるに依り之れを韓廷に復讞したりと云ふ

本島は、往時は住民極めて稀少なりしも、近世に至りて商賈及び農夫漁夫等の棲り住する者相踵ぎ、本邦人亦た此間に雜居し、韓人の戸數約四五百に達し、本邦人は兩三年前迄は其數殆んど三百人に達したりしが、一時本邦政府より退

去の命令ありてより減少して今は百四五十人の居住に過ぎずと云ふ、是れ等の本邦人は概ね島取縣下より直接渡航したるものにして樹木の伐採及び大豆、石花菜等の密輸出を以て營業とし純然たる日本村を成し、中には酒、煙草、紙、油其他日用の雜貨店あり、二三の料理店を開き酌婦の來り住するもの亦た之れありと云ふ

鬱陵島より東南の方約三十里、我々隱岐國を西北に距る殆んど同里數の海中に於て、無人の島あり、晴天の際山峯の高處より之れを望むを得べし、韓人及本邦漁人は之れをヤンゴと呼び、長さ殆んど十余町、沿岸屈曲極めて多く、漁船を泊し風浪を避くるに宜し、然れども薪及飲料水を得るは甚だ困難にして、地上數尺の間は之れを穿ても容易に水を得ずと云ふ、此島には海馬非常に棲息し、近海には鮑、海鼠、石花菜等に富み、數年以前山口縣潜水器船の望を屬して出漁したるものありしが、潜水の際、無數の海馬の爲めに妨げられたるに、飲料水の缺乏との爲めに充分營業することを得ずして還りたりと云ふ、察するに當時の季節は恰も五六月にして、海馬の産期に當りしを以て、殊に其妨害を受けたるものならんか、又た附近に鱈漁の好網代あり、數年以來五六月の候に至れば大分鱈繩船の出漁す

るものあり、昨年春季同處より歸航したる漁夫に就て之れを聞くに、出漁未だ二三回に過ぎざるが故に、充分の好果を得たりと云ふべからずと雖も、毎季相應の漁獲あり、從來の經驗上其網代の狀態及び鱈類の棲息多きとより觀察するに、必らずや良好の漁場たるを疑はずと、蓋し當業者の爲めには尙ほ充分探檢の價値あるべきを信するなり(其要領は會報第一集に載せたり参照せよ)

厚利浦(平海郡)本浦は慶尙道に隣する一小港にして丑山浦の北四里にあり、灣口東南に面し其形新月狀を成し、西北環らすに丘陵を以てし西、北の風位を避くるに適し、本邦漁船の寄港するもの些ながらず、人家七十余戸其海岸に村落し、半漁半農を以て生計を營み、人情穩かなり、又其海岸に井泉あり、清冷にして湧出饒多に、船舶飲料水の好供給場なり、近海鱈、鯛、鱒、鱈、蟹、河豚等を産し、韓人の春秋兩季の鱈漁及春季の鱈、河豚漁最も熾なり

箕城(平海郡)厚利浦の北三里にある人家百余戸の一村落昔時萬戸の治たりし所にして瓦棟慶尙の遺存するものあり以て指點の標となすべし、其前岸には、一帯二十余町に亘れる砂濱を控へ、地曳網の好漁場なり、此處は春季本邦潜水器船の出漁し納屋を構ふる所にして納屋場は洞の北方に

露國人情風俗雜觀(承前)

内田 甲

隆起する丘陵の東端海濱にあり、乱礁の間僅かに漁船を泊し風濤少しく荒るるときは船を砂上に曳き揚ぐと云ふ竹濱灣(蔚珍郡)一に竹邊とも書す、完全の良港と稱すべからずとも、江原道中屈指の要港にして灣内稍々廣く、百噸内外の小漁船を泊するに足る、灣口南東に面して半月状を形成し、北岸一高丘陵の隆起して其背面を遮蔽するものあり、西、北の風位を避くるに宜し、此處は春季本邦潜水器船の要なる出稼根據港にして納屋場は人家を離るゝこと約五丁許の東方丘陵山下の濱岸にあり、盛季四五月の候に至れば潜水器船の輻輳數十隻に及ぶこと珍らしからず、竹濱灣は灣の西岸にあり、人家四五十戸漁業及び農業を以て生計を營む、往時は人情不良にして本邦漁船と争鬪珍事を惹起したること往々之れありしかども、現今に至りては靜穆却て本邦人に親むの風あり、洞の前岸に連りて里餘に亘れる一帯の砂濱あり、地與網の好漁場にして鱈、鱒、鱒、鯛、鱈、鱒、鱈、鱈、鱈、鱈等を産する所なり (末巻)

韓山に露宿して

ば た

太刀枕打ち臥す空に月牙て

虎や叫ぶと思ふ荒野う

露西亞は十月より雪降り、翌年五月に至らざれば積雪融解せず、之の長さ冬の日に於て百姓は農事を營むを得ず、労働者は戸外の労働に従事するを得ず、事業停滞活動の中止し恰も長夜の至りし如く、一般人民は飲酒舞踏娛樂の時期至りたりとなし、室内に籠居してあらゆる不良の娛樂に耽り、夜は男女ベーチカの上下に難態し、淫猥云々に忍びざる居動に及び、風俗を破ること少なからず、又上中等社會に在つては俱樂部或は個人の私宅に相會し、舞踏會、假裝會、さま／＼の事を催し、老幼男女差別なく互に手を取り相抱て舞踏亂舞し、娛樂漸く盡きて思ひ／＼の人を伴ひ、料理屋旅館などに出懸け、真摺汚され、家庭の禮節破壊せらるゝ、等實に甚しきものあり

冬期は寒を防ぐ爲め、二重窓を密閉し、戸外の空氣進入せざる様注意してあれは、室内暖かにしてさしもの寒國に在る思ひなからしむると雖、空氣腐敗し、爲めに床虫虱蚤の如き昆蟲發生し、人を苦しむ、一方ならず、就中最も多きものは床虫にして我々日本人一度ひ之の虫に喰はるれば

腫物の如く膨れ上り、大に痛むと雖も、露人は一向平氣にして感ぜざるもの、如し

露西亞人は必ず土曜日にデツキ掃除をする習あれども、宗教の儀式に一週一度入浴するの定めあるより、其の序を以て掃除する位に過ぎず、一般に衛生上の概念より室内清潔を行ふに非ず、便所の如き上等社會に非ざれば完全のものなく、大低地を穿ち雨雪を凌ぐ蔵を造らへ、枯草木片等にて臀掃除をなせり、又甚しきに至つては指を以て、汚物を壁砂等に塗り付け、水を以て手と洗ひ居れり。故に吾人の便所より出で水にて洗ふ時は自國人の不潔なる様に日本人もなすものかと思ひ上等の人々は之を見て笑ふなり

雪解け時期は最も不潔なるものにて、冬期放棄せられ雪中に埋もりし汚物ども次第に現はれ、腐敗して滿地一帯の泥濘と混し、室内は之等の汚物を靴に着けて運ひ來り、悪疫傳染病の原因ともなるなり

露西亞の風呂は日本の如く貴賤混浴せず、浴者の室を個々に造へ、一二三等の差別を立て、一室を分つて二日間とし一間は衣服を着脱き又休息する爲め寝臺椅子鏡等種々の道具備へ付けられ、一間は即ち浴室にて、ストーブに石を燒き、之に水を注げば忽ち湯氣室内に滿ち、温度非常に上り

恰も釜中に在るが如く流汗淋漓、身骨より出づ、此の時浴者の横臥して安樂なる爲め寝臺を設け、湯水冷水はテジにて出づる様仕懸けられたり

入浴者は一室を借りざるものにて三人迄は同價なり、又入浴者の飲料に供する爲めラムネ、クワス(麵麴にて造りたるラムネの如きもの)等湯屋にて賣捌き居れり

露西亞の婦人は交際場裡に立ち其振舞の雄々しき男も及ばぬ程なるか、物に驚き易く、さもなきことに迄滑魂驚倒するは不思議の性質と云ふへし、之は女性のみに限らず、男性にも其傾きあり、露人の性質、神經運鈍なる如くなれども、實際恐怖心多きに見れば全く左様にもならず、過敏性のもつたるが如き觀あり、最も之等は上等社會に多く、下等社會に稀なる處なりとす

イルクーツク滞在中、知人を訪ふて深更に及ひし事あり時に知人の妻外出して在らず、午前二時頃極馬を驅つて歸り來り、余の座に在るを見て挨拶をなし、ボツケツトより護身用の拳銃を取り出し、靜に架上に置いて椅子に着き、此の頃は物騒にて女の夜歩行き不安心なれば頗る困りますとて、四方八山の話に移りたり、其時動作の溫和にして、勇氣ある話も振なりしには痛く感動し今尙は髣髴として妻君

前 号 要 目

(主) 廿世紀の威力活用法 記 著
 龍州の事業概観 縣 文夫
 露國人情風俗雜觀 内田 甲
 旅順口 遠山景直
 (勢) 薩哈運島最近の形勢 篠崎昇之助
 韓國沿海事情 葛生修亮
 支那本部に於ける露人の勢力 黃河古道入
 (情) 韓國に於ける外人の事業 志村南欽
 プラゴウエ通信 ヒラミント
 逸) 豊公征韓朝鮮義軍大將陣中日記 王 星
 (傳) 韓山虎嘯録 吉州 牛
 (鱗) 西蔵探検の無上策 ○ ヲ ヲ ヲ 山中に熊
 の職工あり ○ 喇嘛寺の日本古器 ○ 蒙
 古に於ける源氏の紋印 ○ 馬賊の旅行
 (影) 保險會社 ○ 新羅古都の三大遺物

定 價		廣 告 料	
一冊	金十五錢 (郵税共)	一頁	十圓
六冊	(半年分) 九十錢	半頁	六圓
十二冊	(一年分) 一圓八十錢	一頁	二十錢

明治三十四年六月十三日印刷
 明治三十四年六月十五日發行

東京市芝區西久保巴町二十四番地
 發行兼編輯人 葛生修亮
 東京市城布田三河登町十四番地
 印刷所 幸田口橋之助
 東京市城布田三河登町十四番地
 印刷所 黑龍會印刷所

發行所 黑龍會
 東京市芝區西久保巴町二十四番地
 賣捌所 東京堂